令和７年４月１日

令和７年度　東京都立立川国際中等教育学校　学校経営計画

校長　横田　雅博

１　目指す学校

⑴ スクール・ミッション

「国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な学業を修め、人格を陶冶する」という教育目標を実現するために、Road to Global Citizen－Think Globally, Act Locally－を掲げ、特色あるプログラムを通じて日常から養える国際感覚と多様性をもつ生徒を育成する。

⑵ スクール・ポリシー

○　立志の精神

国際社会に生きていく人としての自覚をもち、自ら志を立て、未来を切り拓いていく力を育成する。

○　共生への行動

国際社会にあって、自己の考えを明確にもち、表現できる能力を養うとともに、異なる文化を理解し尊重する態度を育成する。

○　感動の共有

学校教育のあらゆる場において、生徒の主体性を重んじ、達成感、連帯感を育成する。

⑶ 育成したい資質・能力

○　Resilience	難しい課題に粘り強く取り組む姿勢、柔軟な考え方
○　Ambition	目標を設定し、その達成に向けて主体的に取り組む高い志
○　Team Working	仲間を思いやり、集団やチームのために力を尽くす献身性
○　Global Communication	地球的な視野をもち、地域や社会に貢献しようとする態度

２　中期的目標とその達成に向けた方策

⑴ 附属小学校と一体的な運営を行いグランドデザインに基づく教育活動を実現する学校経営及び組織の構築

・管理運営規定に基づく組織的な学校運営を行い、企画調整会議を学校経営の中枢とした組織的学校経営を推進し、校内分掌内の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営を図る。

・分掌・学年主任を中心として、全教職員が課題を共有し、課題解決に向けた協働体制の構築、附属小学校との一体的な運営、中等教育学校における２－２－２のフェーズを意識した取組を推進する。

・生徒による授業評価、学校評価、学校運営連絡協議会での意見等を生かした学校運営を行う。

⑵ 学力の三要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）の育成を意識した学習指導を展開

・一人一台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進する。

・探究プログラム「立国ＬＥＡＤＥＲプログラム」と教科における探究的な学びを往還し、メタ認知力を育成する。

・生徒の第一希望とする難関大学入試で求められる思考力・表現力を磨き、第一志望校合格へと導く、教員の教科指導力の向上と授業改善を図る。

⑶ 生徒が自己の適性を知り、自信をもって様々な活動に取り組み自己実現の可能性を広げられるよう育成

・生徒の適性に応じて学校内外の活動に取り組めるよう学校全体で推進し、生徒の努力や成果を認める機会の活用や創出を図る。

・２－２－２のフェーズを意識して上級生をどのように支え、下級生をどのようにリードして何を伝えるかを考えて行動できるように学年全体で指導を行い、「よき立国文化」を継承する。

・生徒指導に関して他学年と情報を交換し、効果のある取組や留意点を共有する。

⑷ 入学者決定業務の適正な実施、教育課程の見直しと改善、学力向上・授業力向上に向けた取組の推進

・全校体制で適性検査業務を運営するとともに、入学者決定業務を適正かつ確実に実施する。

・６年間の中等教育学校の教育の特長を生かすべく、教育課程の見直しと改善を図る。

・指導と評価の一体化を推進し、授業評価アンケートの活用や定期考査分析システムの活用などして、授業力向上と組織的な指導改善を図る。

⑸ 生徒の進路希望を実現する、進路探究部を中心とした組織的な指導体制と進路指導の「型」を構築

・２－２－２のフェーズを意識した６年間の体系的な進路指導計計画に基づいた指導と学年団による効果的な取組の確実な引継を行う。
・進路指導の基本理念の踏襲ときめ細かい指導による「入学後に伸びる学校」としての実績を維持する。
・データとその分析に基づく進路指導及び教科指導、組織的な講習・補習を実施するとともに、保護者との連携に基づいた指導を実現する。

⑹ 小中高一貫教育の特色を活用し、規範意識と道徳心を育み、集団力を高めるとともに、自主自立の精神と自己管理能力を養い、リーダーの素質を育成する生活指導の実践

・帰属意識を高め、自分と他者を大切にして良好な人間関係を築き、自ら心身を鍛える態度の育成と生徒一人一人が大切にされているという実感がもてる指導の充実を図る。
・学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、いじめをしない、させない、見過ごさない態度を育成する。
・学校行事などにおいて、附属小学校との交流も含めた、本校独自の異校種・異年齢活動を推進する。

⑺ 安心・安全な学校創りと環境整備の推進、生徒の健康保持増進や体力作りを推進

・基本的生活習慣の確立と健康保持の自覚を育成する。
・災害安全・生活安全教育を推進するとともに、生命尊重の視点に立った生活指導、安全指導を徹底し、生徒の健全育成を推進する。
・校舎・施設を大切に使う姿勢を育み、公共の場をきれいに使う環境美化活動を実践する。

⑻ 保護者、地域社会に本校の魅力を効果的に情報発信するとともに、募集対策を組織的に展開

・保護者向け、都民向け、入学希望者向け、それぞれに効果的な情報発信についての検証と改善を図る。
・入学希望者向け学校説明会の充実と学習塾等関係機関に対する広報活動を推進する。
・教育活動の情報を広く定期的に発信するため、Web サイトなどを積極的に活用する。

⑼ 探究的な学びの「型」を構築し全校体制で推進

・探究的な学びのプログラムの開発と充実を図る。
・探究的な学びの拠点として、ラーニング・コモンズの機能を活用し、生徒の情報活用能力の向上を図る。
・探究的な学びの推進のため、大学や企業、関係機関との連携を活用する。

⑽ 国際教育・国際交流の充実と新たな取組へチャレンジ

・国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な教育を効果的、効率的に推進する。
・国際交流として、海外への「送り出し」と、海外からの「受け入れ」を推進する。
・国際教育の推進のため、「共有」において、東京都の施策に積極的に参加及び発信を行う。

⑾ 学校経営計画に基づく教育活動が円滑な遂行できるよう経営企画室機能の充実を推進

・教育目標の達成のため、経営参画ガイドラインに基づいた経営企画室職員の経営参画と教員の連携を図る。
・管理運営費（前期課程予算）の要求と、自律経営推進予算と管理運営費の効果的で確実な執行を経営企画室と各分掌、各校種間の連携の下、適切に管理する。
・中等教育学校の自律経営予算、管理運営費及び附属小学校管理運営費との効果的な編成と執行を図る。

３　今年度における取組目標とその達成に向けた具体的な方策

⑴ 教育活動の目標と方策

（重点目標）

○「チーム立国」として生徒の自己肯定感を向上させる取組を充実する。
○ ２－２－２のフェーズ（１・２年：ＢＵＩＬＤ期、３・４年：ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ期、５・６年：ＣＲＥＡＴＥ期）を意識して取り組む。
○ 都の施策を最大限に活用し、生徒に様々なチャンスを提供する。
○ 附属小学校と中等教育学校との一体的運営と、生徒と児童との交流を推進する。

【 探究学習の推進 】

（目標）「立国ＬＥＡＤＥＲプログラム」を実践し、探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、解決策の検討、まとめ表現）を体験的に学べる機会を設定する。

①進路探究部の探究セクションと副担任の探究担当が中心となって、本校の探究学習「立国ＬＥＡＤＥＲプログラム」を推進する。

②全ての教員で探究学習の論文指導を行うとともに、探究学習の成果発表の実施と、専門家による探究学習の価値付けを実現する。

③１・２年で探究教養〈ＢＵＩＬＤ期〉、３年で探究専攻準備（探究計画作成、提出）〈ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ期①〉、４・５年で探究専攻〈ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ期②・ＣＲＥＡＴＥ期①〉、６年で自己探究（自己の在り方・生き方を考える、探究専攻の成果を進路に活用する）〈ＣＲＥＡＴＥ期②〉として、６年間の系統的な探究学習を行う。

④探究学習の課題として、「社会課題探究」（ソーシャルチェンジ、困っている人を笑顔にする）、「理数探究」（大学研究室との連携で興味・関心のある分野の徹底追及）、「地域提案型探究」（アントレプレナーシップに基づく地元企業への企画提案、地元企業との商品開発）の教科横断的な３分野を設定する。

【 理数教育の充実 】

（目標）「理数研究校」として、理数に興味・関心をもつ生徒に特色ある取組を実施して、優れた資質・能力をもつ生徒の発掘とその才能を伸ばす。

①「立国ＬＥＡＤＥＲプログラム」における「理数探究」を推進する。

②理科の授業における実験の一層の推進と実験内容の深化を図る。

③大学との連携、民間企業との連携、都の施策を最大限活用し、「科学探究部」「自然科学部」及び「サイエンスラボ」の充実を図る。

【 国際教育の特色化 】

（目標）Tokyo Metropolitan Global Education Network School Premier 20（ＧＥ-ＮＥＴ２０）の指定校として、「送り出し」、「受け入れ」、「共有」プログラムをより一層充実させ、グローバル人材の育成、国際社会のリーダーとなる素地を養う。

①教科活動及び学校行事などの全ての教育活動において、グローバル人材を育成する。

②TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS（１年）、英語合宿（２年）、英語劇（３年文化祭）、イングリッシュ・サマーセミナーを通して、コミュニケーションツールとしての英語力を高める。

③「送出し」　オーストラリア・スタディツアー（５年）、シンガポールグローバルリーダー研修（希望者）、カンボジア・ボランティア巡検（希望者）、米国サイエンス・アカデミー（希望者）、次世代リーダー育成道場（３年生以上希望者）の内容と取組、指導の充実を図る。

④「受入れ」　東京体験スクールの応募や、海外姉妹校などからの短期留学生の積極的に受入れる。

⑤「共有」　海外帰国・在京外国人生徒枠で入学した生徒に活躍の場を提供するとともに、「国際交流セミナー」、「グローバル・アカデミー」（ＰＴＡとの共催によるグローバルリーダーの講演）、留学生との交流等を充実する。

⑥第二外国語講座の内容充実を図るともに、英語教育の成果検証と分析を行い、授業力向上に資する。

【 「ＡＩを活用した英語教育の充実事業」実施校の実践 】

（目標）ＡＩ技術を活用したアプリケーションを、生徒が取り組む英作文や小論文等の添削などの英語「書くこと」の指導に活用し、その成果を検証・報告する。

①ＡＩ技術を活用したアプリケーションを、英語の授業で実施するプレゼンテーションの原稿、大学入試対策としての英作文、また、探究学習における研究論文の推敲に活用することで、個別の最適な学習に資する。

②ＡＩ技術の活用推進、ＡＩリテラシーや効果的な活用方法、留意点等の具体的な方策について、教員研修を実施して理解を深める。

【 学校行事（三祭）の充実 】

（目標）基本的な生活習慣を確立するとともに、生徒が規範意識と道徳心を育み、リーダーとしての素養を育成できるように活動を工夫する。また、生徒の努力や成果を評価し自己肯定感の向上を図る。

①「立国ＬＥＡＤＥＲプログラム」と関連付けて、三祭のそれぞれの内容の充実を図る。

②三祭を通じて「チーム立国」の一員としての成就感と一体感を醸成する。

【 進路指導の充実 】

（目標）進路探究部を中心に、データを活用した個別最適な学びの進路指導と立国イズム（塾に任せない、最後まで諦めない、高みを目指す、チームで実現する）の指導により、学年・教科が有機的に機能する組織体制を構築し、進路指導の充実を図る。

①学力向上のために、自習室の活用やチューターによる指導、ＳＳＣ（Self-Study Club）など、自学自習の習慣確立を図る指導を実践する。

②進路選択の複線化（国内大学、海外大学）や、大学入試受験方法の多様化（一般受験、総合型選抜、学校推薦型選抜）、大学入学共通テスト、情報Ⅰ対策などに対して、柔軟に対応する。
③模試分析（大学入学共通テスト分析を含む）、ケーススタディの悉皆研修を継続し、教科会、教科主任会と連動させて、実際の授業における指導に繋げる。
④２年生で実施する「職業体験」（インターンシップ）を「立国ＬＥＡＤＥＲプログラム」と接続して実施し、アントレプレナーシップ入門、課題研究（探究学習に繋がる発展的調べ学習の実施）につなげる。
⑤進路指導の共通様式による自己分析と、スタディサプリを活用した焦点化による個別最適な学びに取り組む。
⑥保護者会や三者面談等において、データを活用した根拠に基づく内容となるように工夫を行い、保護者から信頼される進路指導に取り組む。

【 「よりよい６年間」「攻める 12 年間」の教育課程編成の検討 】

（目標）指導と評価の一体化の推進、生徒の成績や学習成果等のデータの確実な点検体制を確立する。

①中等教育学校の６年間を見通した「立国ＬＥＡＤＥＲプログラム」における意図的・計画的な教育課程を充実させるとともに、３年後の令和 10 年に附属小学校からの進学してくる生徒と、中等教育学校から入学してくる生徒との混在後の６年間を含めた 12 年間「立国ＬＥＡＤＥＲプログラム」を構築する。
②生徒の成績や学習成果等のデータ、指導要録、調査書など、様々な文書の発行に当たり、複数人による複数回の点検を遵守する。

【 中等教育学校の広報活動の強化 】

（目標）積極的に保護者・地域・社会に情報発信を行うとともに、募集対策に組織的に取り組む。

①「立国ＥＸＰＯ2025」（小学校３～５年生への説明会、小学校６年生へのきめ細かい個別相談）を新たに実施して、広報活動を拡充する。
②学校説明会において、生徒が説明役などで登壇することで、保護者や小学生に対する効果的な広報を展開する。また、外部の説明会にも積極的に参加し、広報活動を強化する。
③学校の情報発信の場であるウェブサイトを随時更新し、知りたい情報をすぐに見付けられるように工夫する。また、都立学校保護者コミュニケーションシステム「Classi 東京都版」を活用し、保護者には、適宜、学校の様子を伝えるとともに、意見聴取の場面を設定することで、開かれた学校となるよう推進する。

【 生徒の体力向上及び健康の保持増進 】

（目標）生徒が安全安心な学校生活を送り、生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努める。

①体力を向上させ、心の安定を図り、社会の発展に貢献し得る心身共に健康な人間を育成する。
②生徒自らが健康を意識し、自己の健康管理に努めることを通して、進んで健康づくりを実践できる能力を育てる。
③スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター等と関係部署の連携を深め、教育相談体制の充実を図り、日頃の生活状況やいじめアンケート等に基づく個々の生徒の状況把握に努め、一人一人に応じたきめ細かい指導を実施する。
④「都立高校等における産婦人科医を活用したユースヘルスケア事業」など、生徒の発達段階を踏まえ、様々な教科等を横断的・効果的に関連させた取組等を推進し、生徒が自ら健康的な生活を送ろうとすることができるようにする。
⑤組織的な教育相談体制の確立及び個々の教職員のカウンセリングスキルの向上を図り、生徒の悩みに起因する事故の未然防止に取り組む。
⑥教員の負担の軽減を図るとともに、部活動の指導を充実していくため、地域の幅広い協力を得て、部活動指導員や外部指導者などの外部の指導者を含めた指導体制を構築する。

【 附属小学校と中等教育学校の協働 】

（目標）附属小学校との連携行事を効果的・効率的に推進する。

①中等生による読み聞かせ等、附属小学校の児童と中等教育学校の生徒との交流活動の充実を図る。
②中等教育学校生徒会によるレクリエーションの継続と充実、また、附属小学校の児童を対象とした部活動の公演などを実施する。
③附属小学校校舎の利活用に関して規定等を策定し、附属小学校の教育活動を優先に、中等教育学校生徒の教育、学校行事、部活動等での利用を促進する。

⑵ 学校経営の重点目標と方策

①全教職員が、中等教育学校及び附属小学校の一体的な運営に対する意識を高め共有することで、校内組織体制の強化と改革を推進する。
②企画調整会議、教科主任会議、ＰＤＣＡ会議の機能の充実と委員会の活用による共通理解を図る。
③広報活動、ＳＳＣ（Self-Study Club）について、全ての教員による全校体制で取り組む。
④若手教員の教科指導力などの向上のため、組織的な支援体制を構築する。
⑤読書活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の基礎を育成する。
⑥自転車乗車用ヘルメット着用の徹底を図り、生徒の安全の向上を図る。
⑦ＳＯＳの出し方に関する教育の推進、学校の居心地向上検証プロジェクト、自殺対策に資する教育を行う。
⑧「立川国際中等教育学校いじめ防止基本方針」に則り、学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、いじめをしない、させない、見過ごさない態度を育成する。
⑨校内研修や啓発活動を通して、教育公務員としての高い使命感と倫理観をもち、服務規律を順守することを徹底し、体罰や暴言のない指導、３ない運動プラス、服務事故根絶を達成する。
⑩東京都こども基本条例や人権教育に関する法令等及び人権課題についての正しい理解と認識を深め、立国ルールである生徒の呼称と、個人情報を取扱う際には複数人による複数回点検を徹底する。
⑪ＩＣＴ機器を活用した企画調整会議等のペーパーレス化、デジタル掲示板を活用した情報共有・連絡体制の構築、また、教科指導以外の業務の精選と効率化、さらに、週に一回以上の定時退庁の実施など、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。
⑫施設・設備等を計画的に整備し、良好な教育環境のための予算編成を組むことで、充実した教育活動を実現し、働きやすい職場環境を創出する。
⑬経営企画室の学校経営参画を促進し、業務管理表等を活用して、業務の進捗状況を適切に管理するとともに、生徒の安全確保のための施設設備の保守点検及び改善を随時実施する。

⑶ 数値目標

①学校運営・組織
★学校評価：生徒・保護者の満足度：85％
○服務事故の発生件数：０件
②学習指導
○自宅学習時間　１・２年生：90 分　３年生：150 分　４・５年生：180 分　６年生：240 分
○教員相互の授業観察：各学期に１回以上
③生徒の挑戦促進
★コンテスト等への参加実績：５件
④進路指導
○進路だより発行：７回以上
○長期休業日中の講習
夏期講習：全学年実施　120 講座　受講者延べ 2000 人　参加率 85％
冬期講習：全学年実施　 40 講座　受講者延べ 600 人　参加率 85％
春期講習：全学年実施　 40 講座　受講者延べ 200 人　参加率 85％
○大学入学共通テスト受験率：100％
○大学入学共通テスト６教科８科目型受験：100 人
★現役合格　難関国立大学（東大、京大、一橋大、東科大、国公立医）合格：10 人
国公立大学合格：50 人
難関私立大（早大、慶大、上智大、理科大）合格：70 人
⑤生活指導
○学校行事への生徒・保護者の満足度：85％以上
○附属小学校との連携による行事：５件
○規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組：５件
⑥安全教育・健康教育
○前期避難訓練：11 回、後期避難訓練：４回

○地域や関係機関と連携した防災教育：１回

⑦生徒募集・広報

★説明会・授業公開参加者数：3000 人

○Web サイト更新：150 回以上

○広報誌 Tach i koku Times 発行：10 回

○一般枠応募倍率：3.3 倍

⑧探究的な学び

○ラーニング・コモンズでの発表活動：５回

○関係機関・大学等との連携事業数　：５件

★コンテスト等への参加実績：５件　**※再掲**

⑨国際教育

○国際教育の生徒・保護者の満足度：85％

○英検取得者数　１級：８名、準１級：60 名　２級・準２級：100 名

⑩ライフ・ワーク・バランス

○夏季休暇取得率：100％

○年次有給休暇取得：一人平均　年間 15 日

★超過勤務時間一月当たり 45 時間以下の教員割合：７割

⑪経営企画室との連携

○管理運営費と自律経営推進予算の執行率：90％、センター執行率：60％